

川柳 さいたま

平成27年度 彩栄賞発表号



氷 結

平成27年
12月号 (No.673)

日川協加盟

巻頭言

傍・命・今(と)いつ(と)いつ

願法みつる

日本漢字能力検定協会では毎年「今、あなたに贈りたい漢字コンテスト」を実施している。想いを込めた漢字の一字に込めたメッセージの募集です。今年で三回目。その作品集を読んでいると、濃密な人間関係の絆が、ひしひしと感じられて、涙がとまらなくなる。

「傍」は、娘であることを思い出せないでいる母を、介護している五十七才の娘のメッセージである。「あなたがわたしの傍に存在してくれるだけで、ありがとう。」
「命」は、長い結婚生活の末、今は大病と闘っている優しい妻に、これも五十七才の夫からのメッセージである。「今、命という漢字以外は思い浮かばない。不肖の夫ですが、あなたの「命」と伴走させて下さい。」

この作品集には、様々な年代の「私」から、家族や友人そして恩人などへ、「今」心から伝えたい想いの漢字一字が綴られている。それらは具象であり抽象であり、まるで禅の一語のような重みすら感じられる。まさに、言葉のごとく、日本語の素晴らしさであると言える。

その素晴らしい日本語を駆使する短詩形文芸もまた、読者に涙させるほど、大事なものでなければならぬ。軽々な言葉遊びで、何とも締まりのない川柳の世界を呈している「今」が気になるのは、筆者だけだろうか。

日日は好

願法みつる

如是我聞ご立派な政治論

賢さへ人間らしさ放つとかれ

嬉しい日水溜まりにも月が揺れ

斗酒空けて雲に知足を語り合う

車座になって鬼らと月見酒

身勝手な色を重ねて虹の乱

実態が不明あの世の衣食住

背泳ぎで世を拗ねている老いた亀

オスメスのロボット達の痴話喧嘩